

# 図画工作科学習指導案

指導者 松本 有加

- 1 日時・場所 令和元年12月4日(水) 第5校時 場所 図工室
- 2 学年・組 第1学年4組 33名
- 3 「学習の方向性」から題材へ

「学習の方向性」  
 材料を基に思いのままにつくり続けることを楽しむ  
 A表現(1) 造形遊び

子どもたちの姿

- ・図工の時間を楽しみにしている児童が多い。
- ・題材の準備も前もって用意してくる。
- ・「いろいろならべて」の造形遊びでは、ペットボトルキャップを思いのままに並べて、楽しんでた。ペットボトルキャップの色の違いに気付き、色を考えながら集めて、表現する児童もいた。また、おりがみを並べながら、数人でつなげている児童もいた。
- ・「のぼして ペったん」では、紙粘土の感触を楽しみ、押ししたり、丸めたり集中していた。
- ・何をつくったらよいか質問してくる児童もいるが、自分の思いが決まったら真剣に取り組むことができる。
- ・思いがうまく表現できない児童もいる。

教師の願い

- ・しゃぼんだまをつくって楽しむ活動は、生活科の「なつとあそぼう」で体験している。今回は泡遊びの体験を通して泡特有の手触りや質感、色合いの美しさなどを感じさせたい。
- ・小さい泡が無数にでき、その泡が様々な形を変えることに気付き、そこから見立てて、遊ぶ楽しさを味あわせたい。
- ・泡のもつ独特のおもしろさや、はかなさ、消えていく様子、透明な部分、泡が重なったところの色、沈んで混ざり合うところなど、たくさん発見してほしい。
- ・発見したこと、感じたことを言葉に表して、友だちに伝えられるようになり、お互いを認め合えるような活動にしたい。
- ・思いつくまま、活動していく中で、混色の楽しさを感じる活動にしたい。

題材名

**「あわあわ わくわく！」**  
 ～あわのせかいを たのしもう～

A表現(1) 造形遊び

題材目標

- 泡づくりに興味をもち、思いのままに表すことを楽しむようにする。
- 泡をつくることによってできる、泡が重なってできた色、透けるような色、キラキラ光る色などのおもしろさに気付き、思いのままに表すようにする。
- 泡をつくる表現の楽しさ、泡の形や色の面白さに気付き、友達に話したり、聞いたりするようにする。

### 題材について

本題材は、身近にある洗剤を、スポンジとペットボトルを使って主材料の泡を吹いてつくる楽しい活動である。泡をつくる面白さの中で色の美しさに気付くこともできる。泡の形や色などをもとに想像を広げ、友だちの泡のそばで自分の泡をつくったり、自分の思い付く場所に泡をつくったりして泡遊びをさせたい。出来上がった泡の形を通して色に関心をもったり、形のおもしろさに気付き、横に泡を並べたり、上に積み重ねたりできる造形遊びである。泡は、しばらくすると消えて下に沈むため、そこで自然に混ざり合う泡の色のおもしろさがある。また、活動の性質上、自ずと友達の造形と関わり合う場面も期待できる活動であるため、相互観賞も取り入れながら進めていきたい。

### ○学習の主題にかかわる育む資質・能力と本題材との関連

吹くともりもりと出来る色のついた泡をつくる活動を通して、材に関わって色を並べたり、重ねたり、混ぜたりして夢中になってつくることを楽しみ、色に関心をもつことに繋がると考えている。また、泡という材料の性質を最大限に生かし五感すべてをフルに使う造形行為を行う姿を目指していきたい。

### ○本題材における（共通事項）についてのとらえ

#### [共通事項]

- 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえる。
- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

- ・泡をたくさんつくることによって泡の形や色のおもしろさに気付き自分なりのイメージをもち、思いのままに表す。

## 4 テーマに迫るために

### 研究主題

## 豊かな感性と生きる力をはぐくむ図画工作科の創造

～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

### 部会テーマ

思いのままにつくることを楽しむ子どもの姿を目指して

### ○出あいの工夫

教師の実演を見せ、ペットボトルの口から息を吹いて出てくる泡の様子を見たときの、感動や驚きを活動の意欲としたいので、題材との出会いの部分に力を入れる。やり方は、まず活動の始めに子どもたちを教師の机の周りに集める。そして、泡の元になる液体を目の前で調合する。「魔法を使うから目を閉じて」と言って教師は魔法使いの姿になる。目を開けさせる。呪文を唱えながら液体を混ぜる。ペットボトルのスポンジにその液体をつけて、「3, 2, 1」で吹く。そして、「魔法は時間が来ると泡が消えてしまう。」というやり方である。

○場の設定の工夫、

5人グループ3つ、6人グループ3つをつくり活動する。各活動する机の横にもう1つ机を置き、色づくりの場とする。表現する机と、色をつくる机が違うことで、ぶつかってこぼすなどのトラブルを減らすことができる。また、グループにすることで、友だちの活動が目に入りやすく、相互観賞も容易く行うことができる。図工室は水道が近くにあるので、手や口に泡がついた場合でも直ぐに洗い流せるよう安全面を考えた。

○共感的支援の工夫

児童は初めは自分のところから吹いてみるが、1か所だけでなく、グループ内を移動してもよいことを伝える。互いの色を見てどこで吹いたらよいか、自分なりに考えることができる。教師は、泡をつくる場所を考えながら吹いている児童がいたら、その造形行為を周囲の児童にも伝える。教師は、各グループを周りながら、その都度児童に、自分の好きなお色や色はあるか聞いて共感し写真を撮っていく。他にもお気に入りの部分が出来たら教えて欲しいと伝える。そのことで、出来た泡の形や色が重なったり混ざったりして、どのように変化したか、泡の形のおもしろさなどに着目出来るようにする。また、想像力も広がると考えられる。

○小中一貫の視点

身近な材料をもとに、形や色などの美しさや面白さ、不思議な感じなどの特徴に気付いたり、泡や色から想像を広げたり、友だちとかかわったりしながらどのように活動するかを考える。造形遊びを通して、今後の造形的な見方・考え方を働かせられるようにしたい。

## 5 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	○泡をたくさんつくりながら、想像を広げ、思いのままに表すことを楽しもうとしている。
発想や構想の能力	○できた泡の形や色を基にやってみたいことを思い付いたり、思いを巡らせたりしている。
創造的な技能	○泡の作り方を知り、色の泡を横に並べたり、泡の上に重ねたりして自分の感じたように、思いのままに表している。
鑑賞の能力	○泡をつくる表現の楽しさ、泡の形や色の面白さに気づき、友達に話したり、聞いたりしている。

## 6 指導と評価の計画 時間

ア あわのなかの いろのせかいを たのしもう (1.5 時間)

イ あわのなににできた おきにいりのいろをたくさんみつげよう (0.5 時間)

	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1. 5 時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備</li> <li>○教師の行う泡の様子を見る</li> <li>○めあての確認</li> </ul>	関	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備</li> <li>○泡を吹く実演を見せる</li> <li>○めあての確認</li> </ul>
ア あわのなかの いろのせかいを たのしもう			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○液のつくり方や場の使い方を 知る。</li> <li>○一人で楽しんだり友だちと 色の泡をつなげたりする。</li> <li>○できた泡の形や色を見る</li> <li>○自分の気に入った泡の ところを探しその場で待ち、選 んだ理由を話す。</li> </ul>	発  技	<ul style="list-style-type: none"> <li>○液のつくり方や場の使い方を伝える。</li> <li>○表し方に困っている子がいたら、声 をかける。</li> <li>○児童が自分の気に入った泡の ところを探しその場で待つことを伝え、選 んだ理由を聞く。</li> <li>○写真に残したり、共感したりする。</li> </ul>
0. 5 時	イ あわのなににできた おきにいりのいろをたくさんみつげよう		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回つくった泡の写真を見 る</li> <li>○写真になったことで、色の 鮮やかさに改めて気付く。</li> <li>○気が付いたことや感想を、 鑑賞カードに書いたり発表 したりする。</li> <li>○片付けをする</li> </ul>	鑑	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回つくった泡の写真を黒板に貼 る。</li> <li>○その時気が付かなかった泡の重なり や様々な発色の違いに注目させる。</li> <li>○気が付いたことや感想を、鑑賞カー ドに書いたり発表させたりする。</li> <li>○片付けの仕方を伝える</li> </ul>

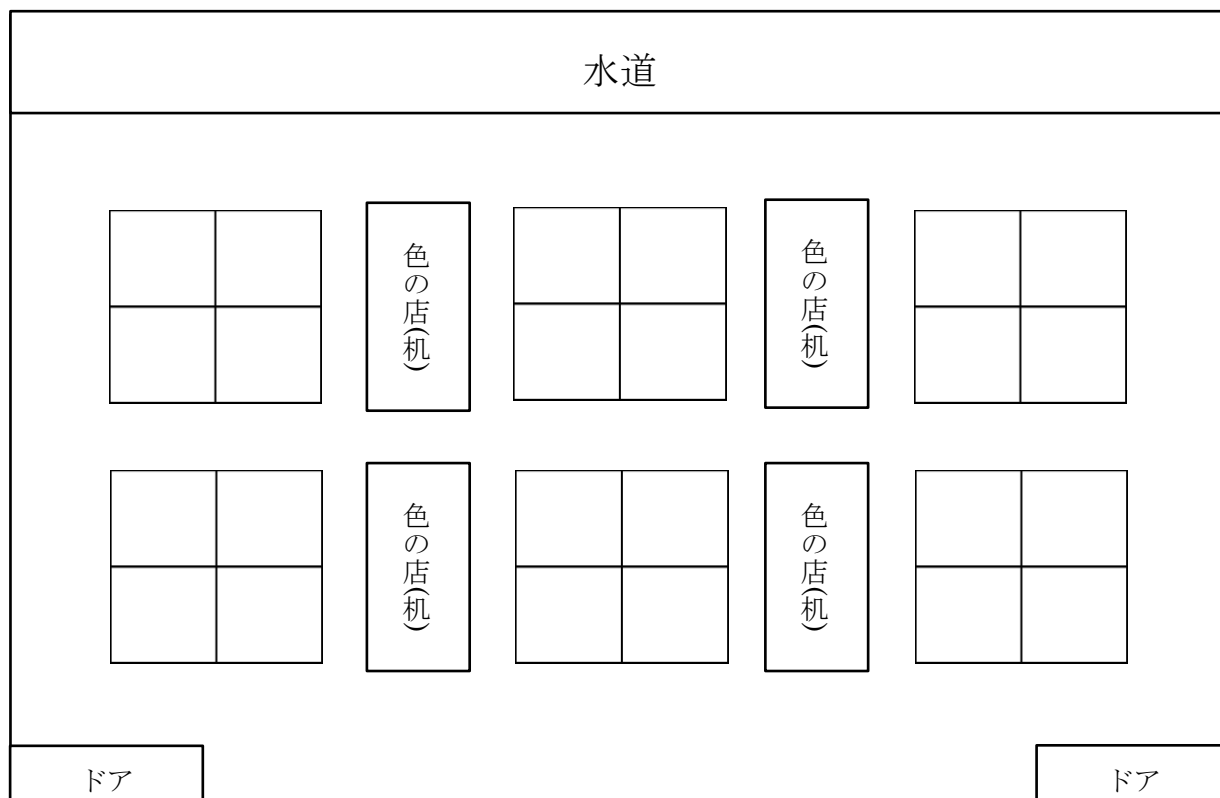
## 7 準備

児童：泡セット 図工ぞうきん

教師：洗剤、皿、絵の具、ペットボトル（水）、スポンジ、輪ゴム、筆

白のビニール袋（机に敷く）、新聞紙、ビニール袋、ぞうきん

## 8 場の設定（図工室）



9 本時の計画（1/2時）

(1) 本時の目標：泡の形や、色の変化のおもしろさに気付き、思いのままに表す

(2) 本時の展開

子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
<p>○準備をする</p> <p>○めあてを確認する。</p>	<p><b>関</b></p> <p>泡をたくさんつくって、想像を広げ、思いのままに表すことを楽しもうとしている。</p>	<p>○6つのグループにわけける。</p> <p>○子どもたちを教師の周りに集め、泡の実演をする。</p> <p>○めあてを確認する。</p>
<p>あわのなかの いろのせかいを たのしもう</p>		
<p>○泡のつくり方を知る。</p> <p>○グループの中で、自分は何色にするかを決める。(赤、青、黄緑)</p> <p>○吹き方を練習する。</p> <p>○はじめは自分のところで、泡をつくるが、移動する子もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この泡、山みたい</li> <li>・□□ちゃんのところで泡をつくってみよう。</li> <li>・色が変わっているところがある</li> <li>・2人で吹くと、きれいな色になったよ。</li> <li>・この色が好きだな。</li> </ul> <p>○他のグループを見に行き、自分の気に入った泡の形や色のおもしろさなどを見つけて発言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんか恐竜の色みたい。</li> <li>・花の色みたい。</li> <li>・虹の国みたい。</li> </ul> <p>○片付けをする</p>	<p><b>発</b></p> <p>できた泡の形や色を基にやってみたいことを思い付いたり、思いを巡らせたりしている。</p> <p><b>技</b></p> <p>泡の作り方を知り、色の泡を横に並べたり、泡の上に重ねたりして自分の感じたように、思いのままに表している。</p>	<p>○泡のつくり方を説明する。</p> <p>○自分が吹く色は1色</p> <p>○ペットボトルでの吹き方をしっかり指導する。</p> <p>○表し方に困っている子がいたら、声をかける。</p> <p>○共感して、どの子にも安心して自分の思いを表現できるように声をかける。</p> <p>○回って何色か聞いたり、写真に残したり、声をかける。</p> <p>○鑑賞するので着席することを伝える。</p> <p>○他のグループを見に行き、自分の気に入った泡の形や色のおもしろさなどを見つけてその場に立つことを伝える。</p> <p>○数人に発言させる。</p> <p>○片付けの仕方を伝える</p>